

7. 底鉈電機漁具試漁

1. 目的

沖繩の石、近海には高嶺や、珊瑚礁及び岩等が広く点在している為本漁業は操業が良く底質を調べて投網しなければ潮掛が多いので漁具の具耗も多い況で今日迄別府漁者が守じて操業してゐる丈で漁獲の動機が見られず実漁場の充實も伴ない漁獲の気配が衰われる状況である。従つて漁具、漁法の改良により該漁業の発展を期せんとするものである。

期間

第一次 1962年、4月23日～27日

2. 使用船舶及び乗組員

白根調査船、かもめ丸595吨1.6P(ヤンマーディーゼル)

(イ) 調査員 助手当直

(ロ) かもめ丸 北高船長外2名 計4人

3. 調査海域

鹿名喜漁場(別紙漁場図参照)

4. 使用漁具の構造

ワイヤ式底鉈型1分(80本付)船尾専用セキヤマの製品を利用して試作した。構造は下記の通り。

(漁具の構造) 1分

名称	材質	規格	数量
針	中古鋼セキヤマの製品	27番×3×5	約40本
文	ナイロン	2分	75cm×80
浮	クレモナ	20本合	水深の1.5倍以上
浮子	ガラス玉	径 1尺	1ヶ
ポンデン草	竹	元径 1.5寸	1本
釣針	鋼鉄	1.8寸～2.4寸	80本

